

ぱれっと

12月号

仙台市市民活動サポートセンター通信

2014 No.184

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

P 2 - 5

市民の力を支える

広報編

広報戦略／市民ライター

P 6

マチノ輪

見せることによって課題を解決する、それがデザインの力
一般社団法人メディアデザイン

P 7

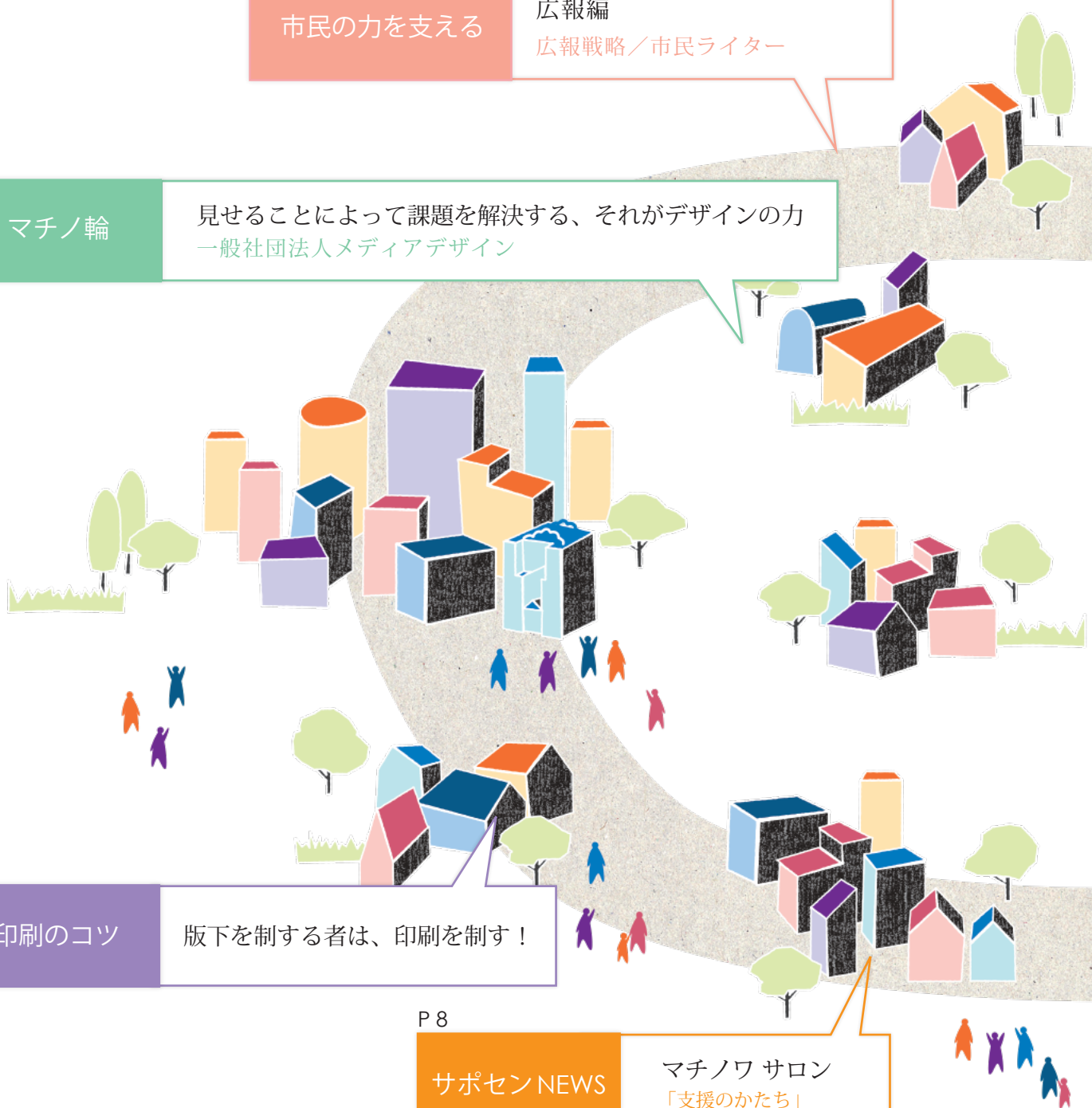
印刷のコツ

版下を制する者は、印刷を制す！

P 8

サポセンNEWS

マチノワ サロン
「支援のかたち」

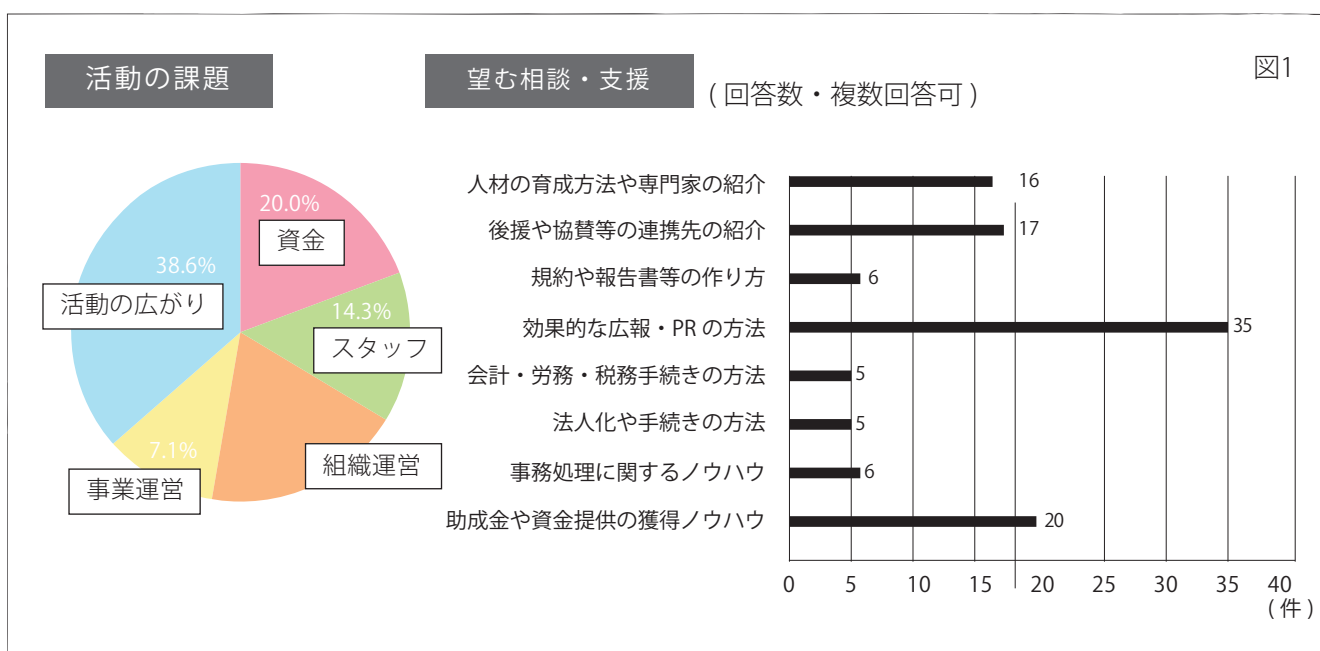




誰もが暮らしやすい持続可能なまちに向けて、地域や社会の課題を解決する人や組織を応援する情報をお伝えします。

広報編 利用団体アンケートより

平成25年度に市民活動サポートセンター(以下、サポセン)の事務用ブース・ロッカー・レターケース利用団体を対象に行った「団体アンケート」。その結果からは、市民活動団体の現状と、これから必要とされる支援が見えてきました(図1)。そこで、今回は「広報編」と題し、自分たちの活動を広めるための効率的な方法や視点についてご紹介します。



contents 1

広報戦略 伝えたい人に伝えるために

団体アンケートから見えるサポセン利用団体が抱える課題の第1位は「活動の広がり」。その課題が、サポセンに望む相談・支援にも反映されていて「効果的な広報・PRの方法」が群を抜いて多くなっています。

そこでサポセンでは、活動を知ってもらうための広報戦略を学べる講座「社会を動かす広報戦略」を企画しました。講師に迎えたのは、戦略的に広報を行い、多くの共感を呼んでいるNPO法人グリーンバード(以下、グリーンバード)代表の横尾俊成さん。横尾さんは、学生時代に市民活動に関わる中で感じた「市民活動団体はお金も人手も無くて広報できていない」という課題を解決すべく、広告会社の博報堂へ就職。身に着けた広報スキルを自身の市民活動にも生かしています。講座では、その広報戦略についてお話しいただきました。



NPO法人グリーンバード

代表 横尾俊成さんに聞く！

活動の広げ方とは？

社会を動かす広報戦略 2014年8月24日(日)開催

グリーンバードが展開している、若者の参加を促す広報戦略を事例として紹介しながら、コミュニティ・オーガナイズングやクラウド・ファンディングまで、話題は多岐にのびました。参加者同士の交流もあり、あっという間の2時間でした。

自分たちは「2割」？

内閣府が行った「社会意識に関する世論調査」によると、ボランティアや社会貢献活動をすでにやっている人たち、関わっている人たちは約2割となっています。一方、この調査では全体の67.4パーセントの人たちが「日ごろ、社会の一員として何か社会のために役に立ちたい」と思っていると答えています。NPOが新たに参加者を集めるため広報をする場合、すでにNPOで活動していたり、ボランティア活動に参加している2割の人たちではなく、「何か社会のために役に立ちたいと思っているけど、まだ何もしていない人」にどう届けるかを考える必要があります。

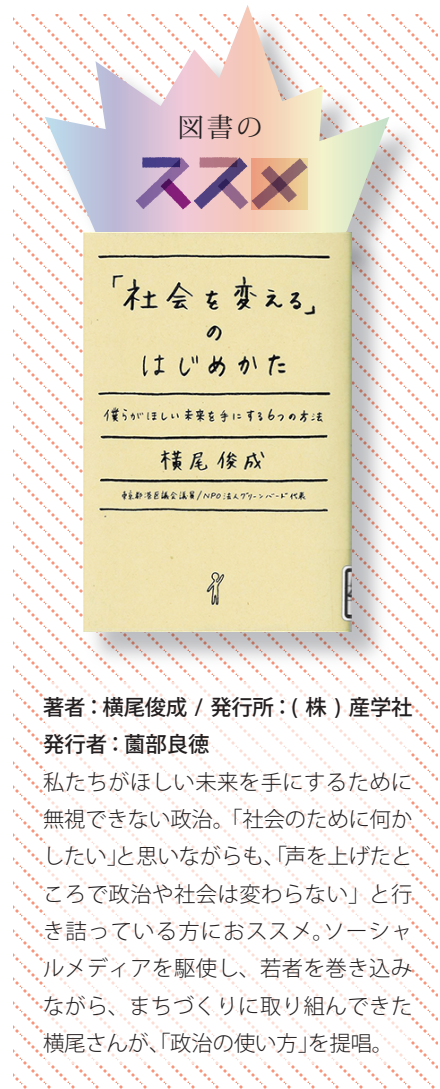
言の葉にのせる

何か社会の役に立ちたいと思う67.4パーセントの人たちを振り向かせるには、言葉選びが必要です。67.4パーセントの人たちはファッションの事、アルバイトの事、生活の事など、日々色々な事を考えています。NPOの広報では、この人たちの身近にある言葉を使うと、より伝わりやすくなります。

たとえば、横尾さんが代表を務めるグリーンバードでは、若者にあまり馴染みのない「ゴミ拾い」という言葉は使いません。朝のゴミ拾いに参加すると新たな出会いがあるという意味を込めて「朝合コン」という言葉を使って、最も参加してほしい若者層にアプローチしています。

活動を広げるには

活動を広げるためには、参加のハードルが低いということが大前提です。そして、どうしたら参加できるかを明確にしておきます。グリーンバードは手ぶらで活動に参加できます。また、定期的に活動しているというのも参加者が集まりやすい理由のひとつです。参加者には、活動を体験してもらいながら、毎回活動の意義を伝えていきます。スタッフや内輪だけで盛り上がる活動ではなく、友達や同僚に、思わず話したくなるような活動にするというのも、活動を広げる際に重要です。



著者：横尾俊成 / 発行所：(株)産学社

発行者：藺部良徳

私たちがほしい未来を手にするために無視できない政治。「社会のために何かしたい」と思いながらも、「声を上げたところで政治や社会は変わらない」と行き詰っている方におススメ。ソーシャルメディアを駆使し、若者を巻き込みながら、まちづくりに取り組んできた横尾さんが、「政治の使い方」を提唱。

NPO法人 greenbird(グリーンバード)

代表：横尾俊成

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前6丁目35番3号

コーポオリンピア732

TEL：03-5469-5318

FAX：03-5469-5338

mail：information@greenbird.jp

HP：http://www.greenbird.jp/

仙台チームのスケジュールはこちら

http://www.greenbird.jp/team/sendai/index.php

市民ライター 注目すべき市民力

インターネットの普及により、だれもが情報の発信者となれる時代となりました。ブログ、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディア。また、チラシ、フリーペーパー、新聞などの紙媒体を通じて、自分たちの暮らすまちの魅力を発信したいと考えている人が増えているようです。

市民が自ら発信することで、まちはどう変わっていくのでしょうか。文章を書くことが好きな人、まちで活躍する人の話を聞いてみたい人、情報発信することで社会の役にたちたいと思っている人。そんな方々を対象に、プロのライター・編集者から、書く力・伝える力を身につける方法を学ぶ講座を開催しました。

講座終了後、まちづくり情報誌の編集に関わったり、市民活動団体の現場に取材に出かけたりしている受講者たちがいます。市民ライターとして、自分たちの暮らす地域を生き生きと豊かなまちにするために、少しずつ動き始めています。市民ライター講座の2つのワークショップから、市民活動団体の広報にも役立つエッセンスをお伝えします。

市民ライター講座2014

まちの魅力を編集しよう！

7月25日(金)・26日(土)・8月9日(土)開催

「書く力」をみがくコツ

人に読んでもらえる文章を書くために必要なことは？おもしろい記事を書くにはどうしたら良いか？「一段ステップアップした記事を書くために大切なのは、『構成力』と『想像力』です」と、本間さん。さてその極意は？

読者を想像する

まず、読み始めてもらうための工夫が大切です。書き手が感じた価値を切り口に、リアルな感動、市民感覚を生かしましょう。読み手を想像し、読者にとっての価値、何が役に立つ情報なのかを考え、記事がきっかけで具体的な行動や変化につながることを意識しましょう。

基本構成は、主題1つ＋副題2つ

やりがちな失敗は、要素をいっぱい詰め込むことです。たくさんの要素の中から取捨選択し、主題を思いきって1つに絞ると、読者が惹きつけられる記事になります。それに基本情報と、もう1つ捨てがたいネタを加えた構成にすると良いです。

読み手に優しく、分かりやすく

書くことは、記事を通して読者とのコミュニケーションを取ることなのです。おしゃべりするとき、相手によって話し方が違うように、記事を書く時も相手が、子どもだったら、お年寄りだったらと、読み手を想像して書きましょう。



東北復興新聞編集長

本間美和さんに聞く！

本間美和さん / ライター・編集者

1976年東京都出身。大学卒業後、メーカー営業を経て雑誌編集者へ転身。09年末から約2年間、夫婦で世界一周の旅に出る。帰国後12年2月NPO法人HUG設立。被災地復興の好事例を共有する業界新聞『東北復興新聞』を発行する。夫婦の共著に『ソーシャルトラベル 旅ときどき社会貢献。』『3years 復興の現場から、希望と愛を込めて』。



「伝える力」をUPさせるコツ

取材を体験し原稿を書くワークショップを行いました。与えられた取材時間は30分。実際に取材相手にインタビューをして、写真撮影を行います。その後、各自取材時のメモを見ながら20分で200字の原稿にまとめました。制限された時間内での編集を実践しました。大泉さんからのアドバイスのポイントは、次のとおり。

記事を書く心構え

書く力だけでなく、読む力、聞く力、話す力を総動員して書きましょう。自分が読者だったら読みたいと思える記事を面白く書くことが大事です。そして、その情報は読者にとってどんなメリットがあるのか、読者にどんな行動を促そうとしているのかを考えて書きましょう。

取材はコミュニケーション

取材相手が話したいこと・聞いて欲しいことと、読者が聞きたいこと・知りたいことは違います。ライターは読者の代表だという気持ちで取材し、記事を書きましょう。取材はコミュニケーションです。ただ聞くのではなく、言葉のやりとりをすることに意味があります。

写真の撮り方

文章を読まない人も写真は目に入ります。少しでも良い写真を撮って、文章を読んでもらえるよう導きましょう。写真を撮るときもコミュニケーションが大切。取材相手に声をかけながら、まずは枚数をたくさん撮ることが大事です。自分が読者だったら、どんな写真が分かりやすいかを考えて撮りましょう。

一般社団法人メディアデザイン



大泉浩一さんに聞く!

大泉浩一さん／ライター・編集者

1960 年岩手県出身。宮城教育大学卒。出版社、編集プロダクション勤務を経てフリー。プロスポーツ関係者や大学の研究者へのインタビュー記事から、観光パンフレットの広告コピーまで幅広い分野の仕事に携わる。04 年、市民の情報発信を支援する「メディアデザイン」設立（12 年に一般社団法人化し、理事）。大学、専門学校の非常勤講師も務める。



市民活動と発信力

今回の「市民の力を支える 広報編」では、市民活動団体が自ら発信するためのヒントと、市民がまちの魅力を発信する市民ライターについて紹介しました。

市民活動団体の広報の基本は、自分たちの活動を、伝えたい人に伝わる言葉で伝えることです。ウェブやチラシ、パンフレットなど媒体によってはプロの力を借りることもありますが、そのプロの方に「何を伝えて欲しいのか」を説明するのは団体自身です。まずは、自らの言葉で伝えたいことを伝えられることが大切です。

一方で、「自らいろいろなことを発信したい」と考えている市民もたくさんいます。そんな市民向けに開催したのが市民ライター講座。発信力をめきめき上げた受講者のみなさんが、市民活動団体の広報に一役買う日が来るのも近いのかもしれない。



社会の課題を解決するためには、多様な主体の連携が重要です。「自分たちの住むまちをもっと良くしたい」と、さまざまな分野で活動する心強いパートナーたちをご紹介します。

見せることによって課題を解決する、それがデザインの力

一般社団法人 メディアデザイン

情 報発信の第一線で活躍するクリエイター達で作られたメディアデザインは、市民と地域活動の情報発信と表現活動のサポートを目的とし2004年に設立されました。出版・イベント・メディア作成と時代に沿った最適な3つの事業を展開し、2012年に一般社団法人化されました。今回は広報の匠、メディアデザイン制作事業プロデューサーの真山正太さんにお話を伺いました。



伝えたい情報を的確に伝える方法が、問題を解決に導く

真山さんはNPOや市民活動団体にとって、いかに広報が重要か知ってもらうために、広報や広告制作に関する基礎知識についてワークショップを開催してきました。プロが教えるチラシやパンフレット作成には、人に見てもらうためのコツがあるそうです。「その広報物を活動に関わっていない人たちが見た時に興味を持つかどうか、他人に伝わりにくい広報になっていないか」第三者に見てもらうことで気が付くことが出来ます。ワークショップでは、チラシのレイアウトや写真の活用方法について、さらに詳しいプロのコツを短時間で習うことが出来ます。

広報物とは「手にとって読んでくれる状態にする」こと

NPOや市民活動団体の情報発信を行う業務で重要な事とは、どんなことなのでしょう。広報物を作成する目的は、ただ見た目がきれいなものを作るのではなく、団体が伝えたい情報を的確に読む人へ伝えることだと真山さんは言います。30年以上、数々のグラフィックデザインを手掛けてきた真山さんは、団体の広報が抱える問題についてこう見ています。「広報物でよく見られるのは団体内だけに通用する専門用語が多く使用されていて、一般の人が関心を持ってない書き方になっていることなんです」。その結果、団体の伝えたい情報が上手く伝えきれずに、団体が目指す目的に共感してもらう機会を失っているのです。だからこそ、事業を行うのと同じくらい広報にも力を注いで欲しいと真山さんは言います。団体の伝えたい事が集約された広報物を手に取ってもらうための手段、それがデザインの力なのです。

(廣田明子)

メディアデザインの ココをチェック

3つの事業

市民活動、地域活動、個人の、情報発信と表現活動をサポートします。

・出版事業

紙の本や電子書籍の企画から制作までを手掛けます。

・イベント事業

広報に役立つコツと技術を伝授するワークショップができます。

・メディア作成事業

情報を広く届けるためのウェブサイトや印刷物をデザインします。

電子書籍版「仙台文庫e」から

電子出版レーベル仙台文庫e02『目からウロコ！マヤマ式デザイン・レイアウト～市民やNPO、みんなの情報発信をサポートするテクニックを手に入れる！～』真山正太著。

チラシやパンフレット制作に役立つテクニックを分かりやすく解説しています。

一般社団法人メディアデザイン

〒980-0801

宮城県仙台市青葉区木町通1丁目

1-11 朝日プラザ北一番丁1階

TEL/FAX : 022-224-5308

HP: <http://mediadesign.jp/>

mail: sendai@mediadesign.jp

印刷の



市民活動・NPO活動をしていると、チラシや会議資料を作成したり、それを印刷したりすることがよくあります。

サポセンには現在2台の印刷機があります。あくまで「簡易印刷機」なので、写真部分の仕上がりなど、印刷会社で印刷したもののようにいかない部分もありますが、ちょっとしたポイントを押さえると失敗を避けることができます。今回は、サポセンスタッフが経験から得た「印刷のコツ」をお伝えします。

印刷の仕組み ※版画を思い浮かべると分かりやすいですよ

印刷機では、まずはじめに原稿を読み取り、「マスター」という薄い紙に写し取って、「版」を作ります(版画でいうところの「版木」)。これが「製版」です。これをしないと印刷ができないのです。製版の後「印刷」です(版画の、版木に紙を置いてゴシゴシ…とやる作業です)。印刷機では、紙を送って、版をあてて、ぎゅっと押し当てて写し取る…という作業を機械がやってくれるのです。



Point

版下を制する者は、印刷を制す！

印刷物の元となる原稿のことを「版下」といいます。どんなふうに版下を作ると良いのか、版下づくりのポイントを3つにまとめました。

1. 白い紙にモノクロ・片面プリントでつくる

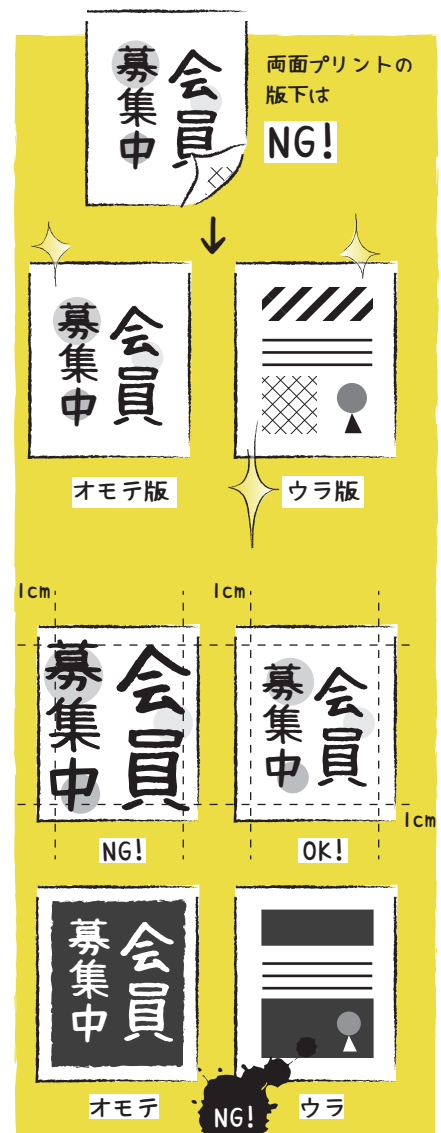
- ・色紙で作った場合、版下の紙の色まで製版され、全体がグレーがかってしまいます。
- ・カラー印刷で作った場合、黄色・黄緑色などは機械が読み取れず、その部分が印刷されないことがあります。また、モノクロであっても、グレー部分(特に薄いグレー)は、綺麗に出ない場合があります。
- ・両面がプリントされた版下の場合、製版時に裏面の文字が透けて印刷されてしまうことがあります。版下は片面ずつ準備してください。

2. 端は1cmぐらいあける

手書きの場合は、特に注意してください。紙の端 1cm ぐらいは製版も印刷もされません。周りに 1cm ぐらいの余白ができることを想定して作ってください。

3. ベタが多すぎるのは無理

真っ黒の部分进行ベタと言います。ベタではインクを多く使うので、インクで紙が機械の中に貼りついてしまい、紙詰まりの原因になります。



印刷機受付の際、スタッフに原稿を見せていただくのは、この3つのポイントを確認したり、おすすめの製版モードをお伝えする意味もあります。遠慮なくサポセンスタッフにご相談ください。

サポセン NEWS



今、地域で起きている協働によるまちづくりを考えます。

今回は、まちを良くしたいという人や組織がとなり、地域や社会の課題解決に取り組む事例紹介と、話題提供者と参加者のディスカッションを行います。

これからの地域づくりに欠かせない協働の考え方。

マチノワサロ 「支援のかたち」

日時：2014年12月17日(水)午後3時～午後5時
場所：仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール
定員：30名(要申込み)

主催：防災からまちづくりを考える実行委員会
企画運営：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理/NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター)
協力：せんだいメディアテーク

お申込み/お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL：022-212-3010 E-mail：sendai@sapo-sen.jp



つながる つなげる サポセン

▶ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得・団体運営、組織運営、協働
- ・復興支援活動・シニア活動、セカンドライフ相談など
まずは、お電話ください。

開館時間 平日：午前9時～午後10時

日祝：午前9時～午後6時

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)
及び、年始(12/29～1/3)



編集後記

もう12月。年の瀬が近付いてきましたね。「師走」という呼び名のせいもあってか、なんとなく気忙しい感じがあります。というか、実際忙しいですよね!?けれど、「急いては事を仕損じる」という言葉もあります。忙しい時ほど、落ち着いて、焦らずに。と、自分に言い聞かせるサポセンスタッフでした。

▷ ぱれっと読者アンケートにご協力をお願いします!



サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で左記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

Twitter <https://twitter.com/sensapo>

発行日：2014年12月1日

編集：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：菊地竜生 太田貴 菅野祥子 葛西淳子 松村翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]